



碧南ロータリークラブ週報

第2634回例会 平成25年3月27日(水)

- 会長 黒田 昌司
- 幹事 木村 徳雄
- 会場監督(SAA) 新美 雅浩

2012-2013 年度 国際ロータリーのテーマ

■例会日 毎週水曜日 12:30 ■例会場 碧南商工会議所ホール
 ■事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
 TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
 ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
 E-mail: info@hekinan-rc.jp

■会報委員 菅原優・鈴木泰博・服部弘史・大竹密貴



●齊 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

●本日のメニュー

季節のお弁当 とんがり帽子

会 長 挨 拶

皆様のお手元の中に、「企業における生物多様性」という案内が入っております。地区の社会奉仕委員会、環境保全委員会の担当で、4月9日に衣浦グランドホテルで開かれます。

そこで、本日は生物多様性についてお話したいと思います。

生物多様性について、昭和天皇がこんな事を申されておりました。「雑草という植物はない。」人間にとっていらぬ雑草を引っっこ抜いたりするわけですが、草としても一生懸命生きているので、生きている物を大事にしよう、というのが生物多様性の考え方でございます。動物はどうか、というので少し掘り下げてみたいと思います。

3億6千年ほど前に、イクチオステガが生物で初めて陸上に上がったと言われていますが、今までは海が体の周りがあったのがなくなってしまったので、体の中に血液などの海を作ったと言われております。現在に至るまでに色んな進化がありました。このような経緯を考えてみますと生物多様性が分かるわけでございます。イクチオステガから派生した色々な動物が親戚になるので、仲良く生きていかなければいけない、と思います。

植物、動物を大事にして頂きたいと思います。ただ、雑草が生えていると引っっこ抜いてしまうという矛盾はありますが、皆さんそれぞれで考えて頂けたらと思います。



黒田昌司会長

幹 事 報 告



木村徳雄幹事

- ・ 例会変更等は幹事報告書の通りでございます。
- ・ ロータリークラブのレートが、92円から94円に変更になりました。
- ・ 愛知長久手ロータリークラブより、例会会場の変更等が届いております。
- ・ 地区大会の記念記録誌が届いております。お手元にありますので、お目を通して下さい。
- ・ 碧南高浜防犯協会連合会より、春の安全な街づくり運動のポスターが届いております。4月1日から10日まででございますので、よろしくお願い致します。
- ・ スーパー能「世阿弥」、観覧チケット優先予約販売の案内がございます。碧南ロータリークラブも協賛しております。通常販売は5月18日からですが、優先して購入できますので、ご協力をお願い致します。
- ・ 被災高校生支援委員会より、500円募金をしておりまして、各クラブのアルバムなどを作ってほしいとの事です。紙をまわしますので、お名前の記入をお願い致します。
- ・ 4月3日の例会終了後、第10回の理事会がございますのでよろしくお願い致します。

委 員 会 報 告

<出席奨励委員会>

総会員数 66 名 (内出席免除者 10 名の内出席者 8 名)出席者 49 名	
出席対象者 49/63 名	出席率 77.78%
欠席者 17 名(病欠者 1 名)	前々回修正出席率 100%

※三週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

<ニコボックス委員会>

角谷 信二君 } 平成25年碧南市消防団、消防予備隊入退式を無事に挙行することができ
杉浦 栄次君 } ました。皆様の応援とご指導に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

黒田 泰弘君 卓話を担当させていただきます。真面目にやりますので、笑わないで下さい。

新海 孝司君 今年から、岡信の野球部の監督も兼ねることになりました。西三河、全三河大会にも出場しますので、少し気にとめて下さい。

吉武 敏彦君 長田豊治さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。

卓 話

「夢を奏でるバタやんのギター」

会員 黒田泰弘君



黒田泰弘君



本日は田端義夫さんのエレキギターについてお話をしようと思います。

バタヤンといえば、大正8年に三重の伊勢・松阪でお生まれになられ、昭和14年「島の舟唄」でデビューされた、昭和を代表する大御所歌手です。我が国の歌謡史を振り返れば、戦前では藤山一郎と東海林太郎、戦後では田端義夫と美空ひばりを挙げるのに異を唱える人はいないと思います。田端義夫は現時点において、我が国最高ランクの歌手と言われております。

田端先生のトレードマークになっているエレキギターは、アメリカの「ナショナル」というメーカーの物で、1952年製です。半世紀以上の物ですので市場に出るのは非常に稀です。ギターとしてはオールマイティーでは御座いませんが、弦を弾いた時の、三味線のような太い音が、他には無い魅力を持っています。ギターは生ものですので、同じ時代の同じメーカーであっても、木材の使用箇所や乾燥具合、マイクの磁力、コイルの巻き具合など微妙な変化で違った音色になってしまいます。全国には多くの田端ファンがいらっしゃいますが、歌ではなく、ギターの音色でファンになったのは恐らく私一人だと思います。田端先生は、人前でギターを引く事はないと言われております。

田端先生のギターは、1954年にたまたま立ち寄った銀座のヤマハショップで体にフィットしたと言う理由で購入されたようですが、一発で当たりのギターを引き当てたという事になります。以来何十年も使用されています故にギターはボロボロで、部品も数多く交換されていますが、剥げ剥げのボディーは音色が変わるのを恐れて再塗装を拒否されたようです。

また、ギターアンプがステージ上の奥にセッティングされた時、「ギター音は前のモニターから出ますので」のスタッフの説明に、「このアンプから直接聴こえる音で無きゃあかのや～」と激怒し、身近な場所に下ろさせた事もありました。これらの事から、もしかしたら、このギターの音色の良さを誰よりも理解されていたのかも知れません。

田端先生は大変太い弦を使用されており、弾く時にはベースマンがよく用いるチョッパー演奏よくされます。それが、このギターの特徴をさらに引き出す事となり、個性あるあの独特の音色となる訳です。

ここで、どれだけ皆さんがバタヤンの曲をご存知なのかという事で、イントロクイズをしたいと思います。先着1名の方には記念品もございますので、お願い致します。

音楽ドキュメンタリー映画「オース！バタヤン」の公開が間近となっています。今回この映画の公開を記念して、バタヤンギターのレプリカが製作されました。東京の楽器さんが、配給元のアルタミラピクチャーズさんより依頼を受け、田端先生から半年間ほど本物のギターをお借りし、田端先生も間違えたほどそっくりに製作されました。楽器屋さんよりのエピソードですが、型を取るために分解したところ、中から塩の結晶がコロコロと転がってきたと言う事です。気の遠くなるほどのステージをこなされてきた証でしょう。

古賀政男先生が「バタヤンの声には涙がある」とおっしゃられました。それほど声質の評価は高いのですが、これほどの人気を得たもう一つの理由はエレキギターを奏でて歌うスタイルにあると思っています。ギターをこれほど上に抱える人は前代未聞で、ましてや、ヘッドをボディよりも下げて弾くなどとは普通は考えられない事です。また、登場場面での「オース！」の掛け声などの遊び心も、不動の地位を築き上げた原動力となっていると思います。

現在私は、このようなバタヤンギターの研究をライフワークとしていますが、まだまだ駆け出しです。いつまで続けられるのかも分かりませんが、可能な限り日本の心を伝えられるようなギター奏者を目指して努力して行く所存です。

次回例会案内

平成25年4月6日（土）春の家族会

劇団四季「ユタと不思議な仲間たち」

例会：11時より ヒルトン名古屋 2階 シーズン

※バスご利用の方は碧南商工会議所9：50出発です。

平成25年4月10日（水）は6日の振り替え休会

平成25年4月17日（水）クラブフォーラム 地区協議会の報告